

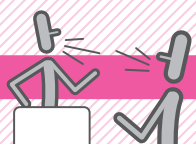
## 第2章

# 質問を聞く段階での 3つの重要テクニック

質疑応答を噛み合ったものにし、発表者、質問者、そして聴衆の3者すべてに意義のある議論にするためには、発表者がしっかりと質問内容を理解し、またその「場」をコントロールすることが重要なのです。そのために非常に有効なのが、ここで説明する3つのテクニックです。

### Master Point

- ▶ 質問を理解せず答え始めてはならない
- ▶ Crying techniqueで質問を理解しよう
- ▶ Rephrasing techniqueで自分にも相手にも聴衆にも質問を明確化しよう
- ▶ Interrupting techniqueで場をコントロールしよう

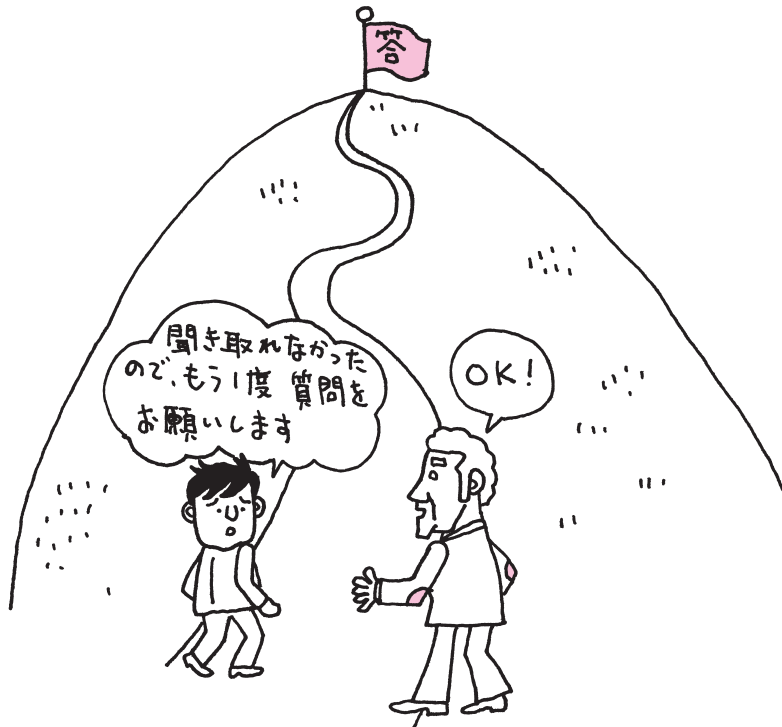


# 1 質疑応答で陥りやすい誤り

質疑応答の場面で、要領を得ていて誰にでもわかりやすい(答えやすい)質問をされることは少ないものです。質問者もそれなりに緊張している場合が多いこと、質問者の英語が上手とは限らないことも一因です。

**1番まずいパターンは、何を尋ねられたのか、発表者自身も十分理解せずに何となく答え始めてしまうことで、これでは当然、会話が噛み合いません。**

もう1つ考えていただきたいのは、**質問内容がわからないままに答えるということは、せつかく質問に手を上げてくれた質問者に対して失礼**であるということです。質問は発表に対する興味の表れです。これに内容も理解せずに答えるということは、その質問を「**適当にあしらった**」と言われても仕方ありません。やはりリサーチ・コミュニティにおける評判に関わる問題です。



質問を聞き直すのは、決して恥ずかしいことではない。  
質問内容を理解せずに答えることは失礼にあたる。



## POINT!

質疑応答の大原則

→質問内容を理解せずに答え始めてはならない